

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム 百
日付	平成18年1月17日 特定非営利活動法人
<b>評価機関名</b>	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験17年
評価調査員	在宅介護経験12年
<b>自主評価結果を見る</b>	(まだリンク先はありません)
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して(特に良いと思われる点など) 隣にある同法人の障害者施設と連携があり、行事の共同実施や相互訪問、医療や緊急時の援助など、グループホーム単独に比べて様々な点で心強い。生活の日課を大まかに決め、午前中には『動』のレクリエーションを、午後には『静』の活動を行う方針を続けているが、利用者のレベル低下で、その活動ができる人も限られてきている。今日は広いリビングに全員が集まって、ペットボトルを利用したボーリングゲームを楽しんでいた。簡単にピンを倒せる人もいる一方、職員の援助があってもうまくできない人もいるのは身体機能の低下も進んでいるのだろう。利用者のレベルの差にどう対処していくかが、このホームのこれからの課題であり、利用者の楽しめるメニューも考えてい必要があるだろう。 こうした利用者のレベル低下の進む中でも、衛生面や健康管理には気を配り、希望時間に応じた入浴を毎日行い、細かな健康チェックを行っている。また、個人の記録や連絡情報等はきちんと整理して残されているので、職員全員が情報を共有して、より良いケアを目指している。『たより』を毎月発行するようになり、家族に喜ばれ、家族との距離が少しは短くなってきているようだ。 今後は記録の効率化を図り、個々に応じた寄り添いのケアを充実させていくことに力を入れていきたい。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 身体機能低下により、身近な所で楽しく過ごせる工夫が必要と思う。折角広い芝生の庭があるので、これを開放して皆が楽しめるよう考えて欲しい。また、車椅子の人も、散歩に連れ出し、戸外の空気に触れさせてあげたい。 利用者全員で同じ事をして楽しむことは出来なくなっているため、利用者の状態に合わせて、一人ひとりの希望に応じた楽しみを支援していくことに力を入れて欲しい。声のかけ方によって、まだまだ残存能力は引き出せると思われる。もっと声掛けすること、することを見つけて与えてあげることが必要と思う。 記録は詳しく整理されているが、何度も転記して事務処理に時間をとられるのは問題である。記録の効率化、最小化を図り、一目で全職員に理解しやすいものにした。事務処理よりも、利用者へのふれあいのケアを大切にしたい。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 恵まれた自然環境の中で、利用者が自分でできることをしながら、皆で楽しく落ち着いた生活をするように支援していくことを目指している。そのために、歌やゲームなどのレクリエーションを行ったり、夜間の入浴支援などを取り入れている。 心身機能の維持回復を目指し、個人の尊厳を大切にきたが、利用者のレベル低下が進んでいるのが現状である。今後は全員での同じ事をするよりは、一人ひとりに合った楽しみや生きがいに取り組ませてあげることが必要だと思う。		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 居室の環境は利用者が自分の好きなようにつくっている。利用者は明るいリビングルームでほとんどの時間を過ごす生活をしている。以前活躍していたカラオケセットやテレビは、利用者が心身共に機能低下しているため、出番が少なくなっている。絵や飾りつけ、観葉植物などで、明るく落ち着いた雰囲気になるよう工夫して欲しい。芝生の庭に自由に入出入りできるようにして、徘徊を防いだり、動きが出るように是非開放して欲しい。		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人であることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 排泄介助、食事介助、口腔ケアなどの身体的ケアはよく行われている。特に入浴については、全員が毎日しているし、家庭のように夜間の入浴にも応じている。また、健康チェックなど身体の状態を詳しく記録し、医療機関と連携して、一人ひとりの健康維持に努めている。 心身の機能維持のために全員で様々なレクリエーションを行っているが、利用者のレベル低下により、それぞれの人に効果的とは言えなくなっている。一人ひとりに応じた対応が必要になっていると思う。 個人の記録や職員間の連絡や会議などは十分なされているので、その効率化を図り、利用者一人ひとりに寄り添い、その能力や希望を引き出すために家事の中に取り組みするようなケアに力を入れていこう。工夫をして欲しい。		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 隣の施設と協力して行事を計画したり、『たより』の発行やアルバムの作成などをすることにより、家族の訪問を促し連携をとる努力をしている。また、職員同士は事故や間違いのないようによく連絡を取り合い話し合う態勢はできている。今後は、利用者一人ひとりの具体的な症状や情動などを引き出し、それに対するケアについて意見を出し合えるような工夫をしてケアの質の向上に努めて欲しい。 ホームが地域から離れた場所にあることから、地域の一般の人との交流や多くのボランティアの来訪は、あまり期待できない。個人情報保護の観点や家族の立場からどのように地域との連携をとっていくかは法人としてしっかりと考慮していただきたい。そして利用者が一般社会に触れることや、社会にホーム機能を紹介する事は大切なことであり、また、家族やボランティアの力を借りる事は、利用者やホームにとっても良いことなので、今後も社会にアンテナを広げていく努力はして欲しい。		